

# モルゲンロート-12

- P1 HPで閲覧の多かった「補正案反対」
- P2.3 R2.6月一般質問、 P4.5 R2.9月一般質問
- P6 令和元年度決算審査における質疑・意見
- P7 岩美町議会議員の特権意識と音無し
- P8 読者の声、編集後記

本誌1面は、右HPのブログ「モルゲンロート」のR2.3~8月の中で、閲覧数が多かった記事のうちの一つを紹介いたします

9月末現在で、多かった順は次のとおりです

「読者の声(2月分)」(3/1)	閲覧数	106
「予算の3月補正案(一般会計)に反対」(3/6)	〃	100
「バス運行経費が明らかでない」(3/9)	〃	88

(9月の1日平均123回のアクセス。どなたかは解りませんが、有り難き事です)

## 「予算の3月補正案(一般会計)に反対」(一部略)

令和2年3月、補正予算などが審議されました。杉村宏議員は、以下の3点で質疑・討論を行い、一般会計補正予算案に反対しました。(反対議員は1名で原案どおり可決)

### ・議長交際費 「減額すべき。」

(予算現額65万円、執行済額25万円、補正減額案なし)  
質疑:(議長交際費は、議長に対する質疑となり、それは行えないと議会事務局からあり、行いませんでした。)  
討論:行政を質す立場の議会の長が関与する予算で、なされてはならない。せめて8割執行を想定し、減額すべき

### ・町長交際費 「補正減の額が少ない。」

(予算現額200万円、執行済額71万円、補正減額50万円)  
質疑:2月末での執行状況、年度末の執行率の見込みは  
答弁:執行額71万円。50万円減額後の執行率は47%  
討論:前年度の町長交際費の執行率は4割台だった。予算執行としてあまりにも見苦しい。他の予算に対して財政の規律からも示しがつかない。せめて8割執行を想定し、さらなる減額案とすべきだ

### ・地方バス路線維持費補助金 「岩美町負担ではない。」

(町内運行の民間路線バス会社に路線維持費の補助。前年10月から当年9月までの運行費用に対し、5月に乗降調査を行い、路線収入等を勘案し、不足分に対して補助額を算出。総務教育常任委員会での説明では、予算現額なし、補正増額案1336万円で、財源は、県支出金28万円、町一般財源1308万円。補正理由は、従前分が例年と比較して130万円増額、快速便分が213万円新規追加)  
質疑:日本交通株式会社が運行する快速便と兵庫県新温泉町が運営するゆめぐりエクスプレス便との関係やそれらの仕組み、収支状況などの説明がないまま、快速便

第12号 令和2年(2020年)10月19日(月)

「杉村ひろし後援会活動通信誌」、春秋発行、原則全戸配布  
連絡先 浦富1690番地1 杉村宏 TEL 0857-72-0981

<https://uradome.grupo.jp/>  
(上記HPに本誌等を随時掲載しています)



HPのクイズ4択(FC)から「太陽は、天の川銀河の中心の、いて座Aスター(ブラックホール)を、秒速何kmで回っている?」

約2.2km 約22km 約220km 約2200km

答えは、P8の編集後記のなかに記載しています

に213万円補助を含む提案だ

兵庫県新温泉町から鳥取市までのゆめぐりエクスプレス便を岩美町内乗換えて路線分割し、当町から鳥取市までの運行について、鳥取県側に新規負担をもたらした。兵庫県側から鳥取県側への費用付替えだ

問 快速便運行開始前と開始後の、ゆめぐりエクスプレスバスの運営収支の変化はどうか

答弁 不明だ

問 快速便運行前に、補助金額、乗降見込み、既存路線への影響など、どのような検討を行ったのか

答弁 乗降見込や既存路線の影響など検討していない

問 快速便に対する鳥取市の負担はあるか

答弁 472万円だ

問 快速便に213万円の補助金額が提案されているが、岩美町民の利用を熟慮したものではない。運営会社が行うからその赤字に対して当町が赤字補填する内容だ  
討論:兵庫県新温泉町から岩美町を経由して鳥取市までの運行を、2分割して、鳥取県内の岩美町から鳥取市への運行負担を、鳥取県側に付け替えた疑念は晴れない。岩美町が負担するものではない



(R02.10.6 牧谷地内のばら、品種は不明です)

モル12P1

《令和2年6月10日 杉村宏議員一般質問》

(議事録:HPのブログ「モルゲンロード」R02.6.10)

1 (問) コロナ財源は、現世代の負担で、所得再配分で

(答) 大きな次世代負担にならないよう国に要望

杉村 新型コロナウイルスによる、100年に1度とも言われている感染症の世界的大流行が、人類の生命と経済に大打撃を与えている。その対策にどこまで公の支出が必要なのか見通しがたい。対策財源は赤字国債だ

特別定額給付金などのコロナ財源は、負担を次世代に先送りするのではなく、千年に1度とも言われた東日本大震災の対策財源として創設された復興特別所得税のように、基本所得税額に対し、一定割合の税率を乗じ算出するような財源を創出し、このようなときこそ、消費税のような逆進税ではなく、税の所得再配分機能を強化させるよう、国に対して町として意見を出さないか

町長 財源対応は、国で議論されるものだ。次世代に大きな負担を残さないよう、所得の低い方に過度の負担とならないよう、町村会など、機会を通じ、国に要望する

杉村 現在や本年中に見込まれる経済状況でも、町内なら例えば町長をはじめとする特別職や県議会議員など、年収1,000万円を超える方々もおられる。民間でもおられるでしょう。町の特別職や議員等、公費支出されている方々の一定部分は姿勢として削減を行ったが、これも形を変えた所得者の負担の側面だ。所得の多い方がより多く、より高い率で負担する。当然だ。復興特別税としての個人住民税の10年間、令和5年度まで。終了後に引き続いて、町として町の対策のために行うのであれば、町のコロナ対策特別税を検討していくべきだ

2 (問) 快速便は補助路線から外すべき

(答) 本年10月以降の運行は関係機関と協議する

杉村 岩井快速便として、鳥取駅から岩美駅間の高規格道路利用で時間短縮した民間バス路線が平成30年10月から運行している。この便は、生活交通路線として必要なバス路線として鳥取県の広域バス路線維持費補助金の対象とされ、地域協議会東部分科会で、令和元年6月15日に平成30年10月にさかのぼって認められた。当町も昨年度、213万円(内県負担は28万円)負担した(赤字額全体686万円、残り473万円は鳥取市負担)

令和2年においても、昨年10月から本年9月までを補助対象期間とし、同分科会が、今月19日に開催予定だ

町長 本町も鳥取市も要望していない。不採算の場合、県や市町の補助も検討してほしいという説明を受けた

高規格道路を活用した、鳥取市への新たな交通手段であり、町民の利便性を向上させるものと考え、県、市とともに補助を行うことはやむを得ないと判断した

杉村 仮に赤字となった場合には県や市、町の補助も検討いただきたいという話があったということだ(このことは、この時初めて聞きました)

平成30年5月の新聞に快速便新設と載り、同月25日の委員会で質疑したところ、町は未協議との答弁だった。その後、9月の町広報紙に快速便運行開始の記事が掲載され大変びっくりした。同月12日の委員会で報告を求めると、事業者の意向で実施するという説明だった。既存路線等への影響、赤字の場合、県や市町の補助の(町の予算に関するのに)説明はなかった

補助も検討してもらうこともあるということであったならば、同委員会でなぜそのことを説明しなかったのか

町長 改めておわびを申し上げる

杉村 本年3月の委員会で、赤字が続くようなら、鳥取市、岩美町ともこの快速便の路線を廃止したいとし、反面、事業者と兵庫側は運行を継続してほしいという説明だった。中身がよくわからないまま、結果的に負担だけはさせられているような立場だ。赤字の可能性もありリスクも踏まえて運行開始を判断したならば、当然に議会に対して説明すべきであるし、していたと思う

生活交通路線として必要であるとは、開始時も現在も思えない。利用状況は1便当たり平均で0.7人。その多くは岩美町民ではないようだ。町民の利用実態はどうか

町長 町民に限った利用実態は把握していない

杉村 1週間前にこの質問通告書を提出したが、この便における岩美町内での乗降場所は岩美駅のみだ。乗降調査をしようと思えば(比較的簡単に)、本日の答弁を行うまでにできる。行わなかった理由はなにか



(R02.10.06 浦富の堀川沿いのコスモスロードにて) **モル12P2**

町長 実績で判断したもので、(通告を受けてから)調査をするまでは考え方が及んでなかった

杉村 本年5月28日の木曜日、岩美駅で、(杉村宏議員個人で)この快速便の乗降確認を行った

鳥取駅7時45分発、岩美駅8時22分着便、岩美駅降車者なし、市内降車者1名。岩美駅8時30分発、乗車者1名、この方は新温泉町民バス「夢つばめ」で湯村温泉から岩美駅まで来られ、快速便に乗りかえて乗車された。岩美町の方ではないと言っておられた。鳥取駅9時45分発、岩美駅10時22分着便、岩美駅降車者1名。同車両のまま快速便からゆめぐりエクスプレスに看板を変えて、そのまま湯村温泉に向かわれた。この方も岩美町の方ではないと言っておられた。同日の以後3便とも、岩美駅での乗降はなかった。乗降数は3名、1便当たり0.5人。月・金は中央病院への利用が多いということで、それ以外の曜日は、このような実態ではないかと推察する

どなたも当町の方ではなかった。どう受けとめるか

町長 町民の利用実態はつかめてない

杉村 東部分科会が6月19日に予定される。快速便について、岩美町民の利用実態を町独自でも調査しないか

町長 する考えはない

杉村 町民の利用実態を踏まえた上での会議出席というような姿勢で迎えらるべきだ

町長 するつもりはない

杉村 兵庫県側の利用者が、朝の、「夢つばめ」からの乗りかえの方、ゆめぐりエクスプレスに乗りかえるというか、その車両でそのまま湯村温泉と鳥取駅との往復をされる方、それ以外の町内だけの乗降はなかった。この路線は、岩美町民にとって、実績、現状、そして今後の当面の間も生活交通路線として必要なバス路線ではない

町長 町民の利便性を向上させると思っている

杉村 この快速便の運行継続は否定しない。しかし、この路線は(鳥取県民・岩美町民の)生活交通路線として必要なバス路線ではない。県の補助路線から外すべきだ

町長 利便性を向上させる新たな交通手段であり、不採算の場合、県、市とともに補助を行うことはやむを得ない。しかし、利用状況等により、令和2年10月以降の運行は、事業者を含む関係機関で協議したい

杉村 鳥取県側の利用は少ない。ゆめぐりエクスプレスバスや夢つばめ等の関係で、実質的に兵庫県側の移動の一部にこの快速便がなっている。(利用者が兵庫県内の方でありながら)鳥取県内の運行分を、岩美町、鳥取市、鳥取県が負担している。町民が納得いくものではない

### 3 (問) 町政の見える化の推進を

#### (答) 前進するよう取り組みたい

杉村 岩美まちづくりの会から2年続けて町政の見える化をご提案いただいた。民主的な運営を行うべき行政が当然に行うべき内容だ。平成30年12月の提案に対し実施すると回答し、実質的にゼロ回答。令和元年12月の提案に対し、引き続き検討するとされた

委員会や審議会の議事概要について、開示できる範囲内で公開するよう検討すると回答しているが秘密会以外、全て速やかに開示すべきだ

町長 委員会や審議会の議事概要は、全て町のHPに掲載し公開している。提案に対する回答で、開示できる範囲内で公開するよう検討するという誤った回答をした

訂正し、正しいものを改めてHPに掲載する

杉村 平成28年9月に、議員と同じ情報を町民にもと質問し、議会と協議すると答弁された。協議等はどうか

町長 議員に配付する資料を同時期に町民が閲覧できるようにすべきということについて、結論が出てない。協議もできていない。改めて議会に対し相談したい

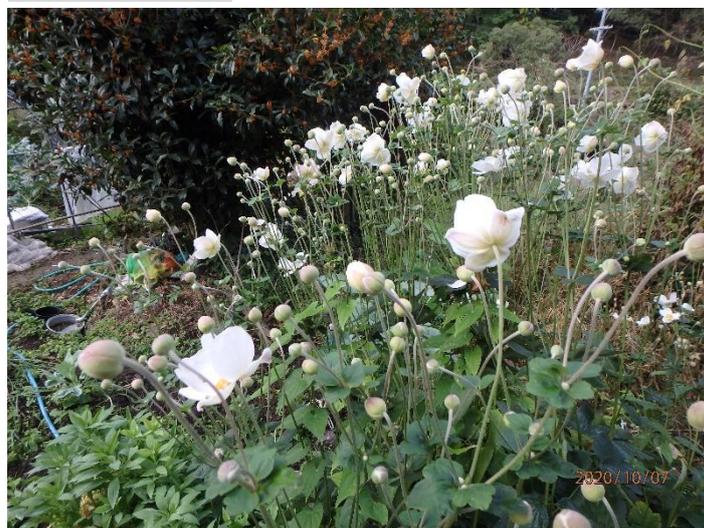
杉村 町議会議員として、主権者の意見を踏まえ、代議を行う立場にある。そのためには、情報の公開が前提で、主権者と議員との情報を得る権利は同じであり、一方だけに知らせればよいというものでは、代議自体が不可能だ。主権者と議員、個人の知る権利は同じであり、情報格差があってはならない

町長 同じレベルで知っていただくのが基本だ。ただ、今までの経過等を鑑み議会と相談し、判断したい

杉村 3度目のご提案をいただくほどのことではない程度に、町政の見える化を進めないか

町長 早急に検討し、前進するよう取り組みたい

その他の質問事項 税条例の改正理由は



(R02.10.07 鳥越の「秋明菊」?)

《令和2年9月15日 杉村宏議員一般質問》  
(議事録:HPのブログ「モルゲンロート」R02.09.15)

## 1 (問) 学校教育は転換するのか

### (答) 学び方が大きく変化する

杉村 ほとんどの大人が、子どもたちの何故?何?という問いに、分かりやすく的確に答えられなかったという想いを、私も含めてお持ちだと捉えている

経済協力開発機構(OECD)は、子どもの疑問に答えるためコンピューターを使って宿題することや、作文や発表の準備としてインターネット上のサイトを見ることは、加盟国の平均を大きく下回り、日本の教育はデジタル空白地帯とされている

文部科学省は、小・中学校の生徒1人に情報端末1台を配備するGIGAスクール構想の実現目標を2023年度から2020年度に前倒した。本町でも来年1月末に児童・生徒1人当たり1台が実現する見込だ

1人1台は、同じ内容を一斉に教える従来の授業方法から、個別の習熟度に合わせた学びに転換するための情報通信技術(ICT)を活用する道具にすぎない

校内ネットワーク、Wi-Fi環境の状況はどうか

教育長 1ギガ対応だ

杉村 町内4校の全生徒・教職員が同時に、動画視聴も含め4校全体で、ストレスなくアクセスできる能力か

教育長 不安を持っている

杉村 端末の管理は、児童・生徒、一人一人に貸与か

教育長 決まっていない

杉村 端末の家庭への持ち帰りはどうか

教育長 家庭の持ち帰りは想定していない

杉村 GIGAスクール構想は、フォー・オールで、子どもたち全員に入口を開く意味だ

現在考えていないということは、あまりに無責任だ

教育長 現在では、全児童・生徒が送受信できる環境にない。通信費も問題だ

杉村 携帯大手3社は、通信料に関する、25歳以下の利用者に対して新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う支援として、通常は契約プランを超えた場合、1ギガにつき1,000円加算されるところを50ギガ、月55時間以上の動画視聴や遠隔の講義分に相当する分を無償化する。家庭内でのオンライン学習、モバイルルーター、これはコロナ禍の中で追加されている課題だ。そして、これが進まなければ、家庭内にWi-Fi環境のない場合、全ての児童・生徒に環境を提供したいとするフォー・オールの考え方に欠けている

モル12P4

各児童・生徒は、個人としてスマートフォンを所有している方々もある。スマートフォンを持っている子どもは、自宅で検索しようと思ったらできる。しかし、持っていない子どもは、貸与されるタブレットを持って帰れないので、家では検索などができない

教育長 将来的にフォー・オールになっていくと想定する。

実施する上で課題、経費・維持管理を解決したい

杉村 現場の先生方のICT活用力の現状と課題はどうか

教育長 校務と授業の2点がある。校務は約90%の職員ができる。授業は約70%だ

杉村 くれぐれも現場の方々への対応に、全てを任すようなことのないようにお願いします。ICT技術を使って負担軽減をさらに進めることができる可能性はどうか

教育長 指導力が上がり、負担軽減につなげていきたい

杉村 保護者の方々に対する説明はどうか

教育長 教育委員会・学校の取組説明は必要だ

杉村 構想実現に既に岩美町も踏み出しており、そしてより踏み込まなければ、Society 5.0、数万年の狩猟社会、数千年の農耕社会、何百年かの工業社会、何十年かの情報社会の次に来る第5の社会と呼ばれる時代を生きることとなる子どもたちに対し、我々ができることは何だろうか

教師が黒板で説明し、子どもたちの興味関心を高めることから、「学びの進化」として教師が授業中でも一人一人の反応を把握していく、それが本当にできるのか  
一人一人の理解度に応じた学びは、今までは困難であり、全員が同じ内容を学習するとしていたが、各児童・生徒が同時に別々の内容を学習していくことになる、そういうGIGAスクール構想の説明がなされている。そのような「学びの転換」が本当にできるのか



(R02.10.07 文化センターの隣、国道側の「蕎麦」の花)

教育長 転換というよりは、学び方が大きく変化する。GIGAスクール構想は、1人1台の端末で、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、子どもたちが持つ資質、能力を一層確実に育成すること、児童・生徒の力を最大限にこの機会を使って伸ばすことが目標だ。情報活用能力は、今までの言語能力と言われていたものと同様に、学習の基盤となる資質、能力と位置づけられ、現実的に小学校でプログラム教育がスタートしている。端末は、鉛筆やノートと並ぶ学習に必要な道具となる。1人1台端末が実現することで、自分の学力に合わせた問題を解いていく個別学習がより可能となり、各自の考えを即時に共有できることにより、多様な意見を知ることができたり、子どもたち同士の意見交換も可能になる。今までの教育実践の上にICTを取り入れていくことで学習指導要領が目指している主体的で対話的で深い学びという学び方が変わっていく

杉村 GIGAスクール構想の実現は、文部科学省が令和の学びのスタンダードとする冊子の中で、一斉学習は「学びの深化」を行って、一人一人の反応を教師が把握できる。そして個別学習は、全員が同時に同じ内容を学習することから、同時に別々の内容を学習する。共同の学習としては、意見を発表する子どもに限られることから、一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有していく、子ども同士で双方向の意見交換が可能になる、それを文部科学省は「学びの転換」と言っている

岩美町議会の事務局に置いてある月刊誌の中には、大量の電子黒板とタブレットが学校に導入される光景はまるで黒船来襲であり、今、教育現場は「夜明け前」とまで言われている。子どもの成長を見守ろうとする待ちの姿勢では、私たち大人こそがSociety5.0の社会を生き抜いていけない。大人こそ学習が必要だ

## 2 (問) 岩井快速便は失敗か

### (答) 事業実績等で、廃止の判断がされた

杉村 平成30年5月に事業者より取り計らいをお願いされ、同年10月に新設された路線バス岩井快速便は、鳥取県関係の公費2,000万円を超える支出が見込まれる中で、令和3年3月末での廃止が報告されている

岩井快速便は残念ながら失敗だったか

町長 路線バスの運行は、運行事業者が計画し、運輸局許可で運行し、関係自治体は必要に応じ補助している

事業実績等も踏まえ、廃止の判断がなされた

杉村 2,000万円を超える支出額は町行政も同じ解釈か

町長 同様の考え方だ

杉村 この路線を補助路線とすべきかどうかという日の前に乗降調査をすべきであると質問をして、その考えはないとされた。(PDCAサイクルを意図的に回さない)

その後、町行政として、町内全体のバス路線の乗降調査をし、快速便は、8月24日(月)に調査し、兵庫県側の利用はあったが、岩美町民、鳥取県民の利用はなかった。この調査結果があれば、6月に行われた分科会で、県民の生活交通の路線として必要なものではないという意見が言えた。しかし、そのことを言える調査結果を持たないまま、その会議に参加し、2,000万円を超える大きな額の補助を鳥取県関係が行うことになった

これを指摘することこそ、執行機関を監視し評価する地方議会の存在意義であり、監査においてまず指摘すべき典型的な事例だ

岩井快速便がゆめぐりエクスプレスバス接続のほかに新温泉町夢つばめバスとも接続しており、新温泉町にとって鳥取への移動手段であることは、従来の答弁や県作成の文書で明らかだ。乗降調査でも兵庫県側の方の乗降が主だ。岩井快速便が新温泉町にとって鳥取への移動手段の一部であるということは共通認識か

町長 岩井快速便が新温泉町と繋がっているのは、ご承知のとおりだ

杉村 町民、県民の利用もないのに、(新規系統を地域住民に必要なバス路線であると、鳥取県補助要綱を捻じ曲げて適用し)、鳥取県・岩美町の補助対象にしている

一方で、中核市である鳥取市を中心とした圏域内の交通手段の確保は重要だ

本町は従来から協議してきたか、また今後はどうか

町長 新温泉町との協議の場はなかった。今後、申出があれば対応したい

(時間切れで中途半端に終わりました。申し訳ありません)



(R02.10.07 無島の「金木犀」。馥郁とした香りでした) **ERL12P5**

《令和2年9月17～29日決算質疑等》

### 令和元年度決算に対する杉村宏議員の質疑など

- 問 たばこ税収(7779万円)は、駒馳山バイパス完成以降、町内IC周辺のコンビニエンスストアにおいて、兵庫県の方の購入が増えたことにより、高止まりしているか
- 答 数年前より販売本数は減少している
- 問 滞納処分費の決算額は0円だが、県から専門家(税務課参事)に来ていただいている間に、町職員の滞納処分に関する実務の経験を深めていただくべきだ。必要な滞納処分は行っているか
- 答 預貯金などの債権を優先して差押している。令和元年度は約1200万円、平成28年度から30年度はいずれも約1000万円の差押を執行している
- 意見 議長交際費の執行率が43%であり、行政を質す立場が議会であり、その長が直接関与する予算の執行として低すぎる。3月補正で減額すべきであった(予算現額:65万円、執行済額:28万円、不用額:36万円)
- 問 町長交際費の執行率が5割を下回っている。予算の執行として他の予算に示しがつかない。3月で50万円の減額を行ったが、補正減した額が少なかった(予算現額:150万円、執行済額:71万円、不用額:78万円)
- 答 不測の事態にも対応できるよう一定額を確保した
- 問 オストメイト対応の多目的トイレの整備を、町内外の方が多く利用される施設内に行い、99万円の補助をしている。利用者はあるか(補助対象事業費:199万円、補助金額:99万円)
- 答 金融機関の窓口の奥に設置されている。オストメイトの利用は不明だ。車椅子の利用はない
- 問 地方バス路線維持費補助金は、意図的にPDCAサイクルを回していない。同補助金に岩井快速便にかかる費用が含まれており、町民利用の実態がない。計画(Plan)が、高規格道路活用による町民の利便性向上で、実行(Do)で、やってみて、評価(Check)が行われていない。6月の一般質問の答弁で乗降調査を頑なに行わないとした。決算にあたって、結果的に利用が少なくとしているが、6月時点でチェックを行っていたら、次年度に生かすことができた。意図的に評価を先送りし、大きな額の公費を投入することに陥らしている。評価していないから改善(Action)も当然にできないし、事業廃止は事業者の判断として、公費負担者の説明責任を避けている
- 答 岩井快速便は高規格道路を活用して、町民の利便性の向上が図られる新たな路線として補助を行った。結果

的に利用が少なく、令和3年3月末に廃止の予定だ。廃止までの期間の補助はお願いしたい

- 問 岩美町観光協会に、毎年500万円を町は補助している。決算書等はいただけないか
- 答 今後検討したい
- 問 あんしんコール活動として、概ね70歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に、電話による安否確認等を行っている。どれくらいの割合で確認ができていますか
- 答 週1回、利用者全員103名と連絡が取れている
- 問 岩美めぐみ館(農産物加工施設:旧浦富保育所跡地)は、前施設(役場の北隣にあった婦人の家)と同様、または、それ以上の活用を期待するが、利用状況はどうか
- 答 本年4月から8月では46日の利用があり、前施設の同時期は34日であったことや、豆腐や味噌の加工教室も開催され、利用は増加している
- 問 森林管理システム推進事業は、適切な経営管理が行われていない森林が対象で、その対象山林は膨大だと考える。令和元年度の対象者27名や対象筆数50筆は、全体の中でどの程度の割合か
- 答 陸上地区をモデル地区としている
- 問 町内IC周辺において、住宅地の造成と家屋の新築がなされている。土地を求められる方々の立場からは、地籍が明確になっているにこしたことはない。地籍調査済みの地域を詳しくわかりやすく表示すべきだ
- 答 町全図を色分けしHPに掲載している。さらに工夫する
- 問 奨学資金貸付金の返還状況に、最近のコロナ禍の影響はないか。あれば、配慮したいがどうか
- 答 返還不能の相談はない。新たな滞納者もない
- 問 代替バス運行委託料は増額している。増額理由とさられていた運転手等従業員の方々の待遇は改善されたか
- 答 不明である



(R02.10.06 牧谷にて「デュランタ・タカラズカ」?)

## 議会資料は公開しない。町長の虚偽となる答弁

再掲(20年6月10日(一般質問)、本誌P3右側参照)

杉村「平成28年9月に、議員と同じ情報を町民にもと質問し、議会と協議すると答弁した。協議等はどうか」

町長「議員に配付する資料を同時期に町民が閲覧できるようにすべきということについて、結論が出てない。

協議もできていない。改めて議会に対し相談したい」

上記は、本年6月のやりとりですが、平成28年の町長は、その時の質問を受けて、定例会終了後、すぐに議会運営委員会(以下「議運」と)協議しました。同年9月に開催された議運で、議会資料の公開について、従来どおりと決定されています。(下記の日のHP参照)

つまり、議会資料は、会議当日の傍聴時のみ閲覧でき(本会議のみ、委員会等は聞くだけ)、情報公開請求を行わなければ閲覧等ができないということです。

ですから、協議していますし、議運としての結論は出ています。そこに参加していた当時の副町長である現在の町長の上記の答弁(20年6月10日)は、承知の上での意図的な虚偽答弁となってしまいます

平成28年9月23日(定例会閉会后)議運の発言(HP参照)

当日の議運副委員長

「今までやってきた通りでよいと思う。」

当日の委員で今期前半に議運副委員長であった現委員

「副議長のおっしゃる通りだ。」

当日の委員であった議員

「閲覧したい人は、全部の協議が終わってからすればよいと思う。協議の前に配布するのは乱暴だ。閲覧も議会の審議を経た後でなければいけないと思う。」

同席し協議決定を主導してきた副議長

「議会と住民との情報の開示については、区別しなければならぬと思う。」

「議会を軽視し議会不要論を唱える方だ。」

当日の委員長

「会議の書類は従前通りとする」

上記で、「意図的な虚偽答弁」と示しましたが、これは、現町長なりの、議会への配慮を行った答弁だと思っています。議運で結論を出していることを承知しながらも、(議会サイドにも宿題だとし、放置している現状で)、行政の長が泥をかぶる(できていないと虚偽となる答弁をする)ことで、一般質問の場を収めています

気持ちはわからないでもありませんが、これは、立法府に対する行政府からの、形を変えた議会軽視です

## 岩美町議会議員の特権意識と音無し

左の答弁で、本質的に問題なのは、答弁を行った町長ではなく、自らが決定した内容に背く答弁を行政の長が行ったにもかかわらず、それを問題視しない、決定にかかわった方々です。答弁時に「いや、町長違うで。協議したし、結論は出ている。」と、なぜ、言えないのでしょうか。現議員でいえば、前期の議運副委員長、前期の委員で今期前半に議運副委員長であった現委員、前期の委員であった議員、そして、同席し協議決定を主導してきた副議長の4名です

情報の公開は、民主主義の根幹に関する重要な内容です  
杉村宏議員は、6月の町長の虚偽となる答弁が終わったのちに、上記の方々からの発言を待っていましたが、何も音無しであったため、9月8日(火)に開催された議会運営委員会で、同委員会副委員長(杉村宏議員は今期後半、副委員長に指名されています。)として、「議会運営委員会の決定がないがしろにされている」といたしました

現委員長は、調査し今後検討したいとされました

杉村宏副委員長としては、議運決定に反する大変に重要な事案であり、平成28年9月定例会閉会后に議運を開催しているように、令和2年9月定例会中にでも議会運営委員会を開催するよう、この委員会で要請しましたが、現委員長も9月定例会中はなにもなし、音無しの構えでした

なお、杉村宏議員としては、議会資料の閲覧等をさせないとの決定は、議員の特権意識からの結論であって、民主的な議会運営からは程遠い内容だと考えています

資料の公開のことも、19回にも及ぶ議会活動の在り方検討特別委員会のなかで、議論するよう発言していますが、一向に取り上げず、議員報酬を上げようとすることに偏った進めかたです。偏った進め方に反対しているのは杉村宏委員のみとなっています。岩美町議会議員としてすべきことを優先して議論すべきです



(R02.10.07外邑にて。写真はいずれも道端から撮影)

## 「読者の声」前号投函時等のR2.4.2～22の間に頂きました

(この間の全部で、頂いた順です。本誌掲載分も含めて、毎月1日に前月分をHPに掲載しています。)

- ◎うちの奥さんは、あなたの分だけ一般質問の放送をTVで見ている。あとの人は面白くないそうだ。(南小校区)
- ◎杉村宏が仮に行政の長になって、杉村宏の政策を岩美町議会に提案しても、前期や今期の町議会議員の皆さんは反対する。賛成するならば、今までであっても杉村宏議員の当たり前すぎる意見に賛同してきたはずだ。反対しておいて、行政を執行できない責任を、長に必ず押し付けてくる。町長選挙で当選しても、今のような岩美町議会でも町長(行政の長)になってはならない。身動きできなくて、潰すことしか考えていない。議員の構成を替えることが先決だ。岩美町の有権者の見識が問われている。(北小校区)  
(杉村宏の意見は、当たり前すぎて全く面白くありませんが、「箸よく盤水を回す」の気持ちです。細い箸でも動かしていれば皿の水も動き出す。今のところ動いていませんが)
- ◎自分で配っている？ そうだわな。それでないと。町浦富？ 浦富全部？ え！ 岩美町全部 ……。ちょっと、びっくりした。(北小校区)
- ◎あなたの質問をスマホで見た。バスの運転手だってバカじゃない。どこで、どのおじやおばあが待っているかは大体わかっている。視にくいところも気を付けている。それでなければバスの運転は務まらない。乗降の実態を一番よく知っている。  
路線バスに対する補助金を出しているのだから、その状況で計算すればいい。計算できないような調査を平井知事が了承しているとは思えない。また、乗降調査をしようとするならばシルバー(人材センター)さんに頼むこともできるはずだ。町長の答弁は(100円バスを)したくないがための言い逃れの答弁だ。(北小校区)
- ◎岩美町観光協会の事務局長が辞めさせられて、〇〇〇が押し込んで、自分の奥さんをいきなり事務局長にしている。知っているか。〇〇〇のやりたい放題だ。公私混同も甚だしい。辞めさせられた局長は、花火大会などでも苦労しながらやり遂げてきた。不愛想なところはあるが、まじめに取り組んできた。実績はあるし、能力を買っていたのに。(南小校区)
- ◎(本誌を)入れてくれてありがとう。お礼を言いたくて電話しました。職員の不祥事があったですか。地元の議員さんは何もしてくれません。
- ◎精力的に動いている。頑張ってください。支持しています。(南小校区)
- ◎もっと詰めたいい質問をしないな。統計数値に基づいて、農業・漁業の町民の生活を守る質問を。(北小校区)
- ◎(ご自宅の前でお二人で話されているところ)誰だろうかと話をしていて、たぶん、杉村さんだと言っていたところです。頑張ってください。(西小校区)
- ◎いつも、眼を通させてもらっています。(西小校区)
- ◎あ。杉村さん。ありがとう。(西小校区)  
(当方が名乗らなくても、名前や広報活動等をご承知いただいて、本誌をうれしそうに受け取っていただけることは、大変に、ありがたいことで、励みになります。)
- ◎杉村さん。頑張ってください。(西小校区)
- ◎投函があり、早速拝読いたしました。生中継の町民の声に笑ってしまいました。あー、やっぱりそうなんだなあ、って。有難うございました。(西小校区)

編集後記 あ〜。読みにくいたらありやしない。写真もヘンテコばかり。

議会で話しているんだから、そりゃ、難しいことも話しているでしょう。だからといって、毎回、読ませられ校正しているこっちの身にもなってほしい。たぶん、読み込む人はとても少ない。読まれているのは、「読者の声」ぐらいだと思うが、多数の支持につながっていない。

せめて、写真は、記事に関係なくとも、明るい色の、花とか風景に。記事を読んで明るい気持ちになれないんだから。写真だけでも明るい方がいい。それなら、なかのページの写真だけでも楽しんでもらえるかも。

というやりとりをへて、写真は全て繰入れ替えとなりました。

そもそも、本誌は、めんどろ〜く〜さ〜い〜。But、老若男女に手に取っていただきたい。だったら、どうする？ どうするのか。…現在の岩美町議会の論議という題材・レベルが、大体に愚かしい。そこで、いったい何がしたいのでしょうか。

なお、教育に関する記事がありますが、だいぶ前に、〇〇式でアルバイトをしていて、子供たちと過ごした時間のことを、思い出しています。(=^・^=)🍷

1P右肩のクイズの答は、秒速220kmだそうです。実感まるでなし！

モルゲンロートは、朝日が高峰の頂きよりあたり始め、明るいオレンジ色に輝く様です。杉村宏が高校総体で早朝の南アルプス北岳の輝く姿を観て感動し、明るい今後でありたいとの想いから誌名としています。



(R2.10.6 町浦富地内) **モルゲンロート**